

令和6年度 第2回石川県地域医療対策協議会 協議結果

日時：令和7年3月12日（水） 18:00～19:30

場所：石川県庁行政庁舎11階 1109会議室

<協議事項1：臨床研修病院の指定の取消し（芳珠記念病院）>

- 事務局より協議資料1に沿って説明があった。
- 特に意見はなく、事務局案のとおり承認された。

<協議事項2：令和8年度 臨床研修医の募集定員配分>

- 事務局より協議資料2に沿って説明があった。
- 構成員より、次のような質疑があった。
 - ・来年度以降も、同じようなルールで配分していくのか。
(事務局) 近年、基本的な考え方は変わっていない。
フルマッチが数年続いたり、定員数をしっかり採用したりしている場合には、ルール3のところでは優先的に配分することを検討させていただく。
- 特に意見はなく、事務局案のとおり承認された。

<報告事項1：令和7年度 金沢大学医学類特別枠・自治医科大学卒業医師の配置>

- 事務局より報告資料1に沿って説明があった。
- 構成員より、次のような質疑があった。
 - ・臨時定員の削減については、このように毎年続いていくのか。
(事務局) 昨年度までの方針であれば、本県は毎年2人ずつのペースで削減されていく予定だったと思われるが、国において配慮いただき、令和8年度に関してはペースが緩和されたところである。
- 構成員より、次のような意見があった。
 - ・令和7年度の臨時定員枠が2人削減されたが、恒久定員から振り替え、特別枠は10を維持している。また、令和8年度も1人削減予定だが、恒久定員から振り替える方向で検討している。
 - ・医師偏在は、地域だけでなく診療科の偏在もあるので、いろいろな策を講じていく必要がある

<報告事項2：国の「医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ」>

- 事務局より報告資料2に沿って説明があった。
- 構成員より、次のような質疑があった。
 - ・「診療所の承継・開業支援事業」以外のメニューについても、順次プランを作っていくということか。
(事務局) ひとつひとつ、県の方で準備を進めており、今後改めてご紹介させていただく。
- 構成員より、次のような意見があった。

- ・本県の実情に配慮したプランを策定する必要がある。
- ・本県として、実効性のあるプランを策定する必要がある。

< 報告事項 3 : 総合診療医等養成研究会（仮）の立上げ >

- 事務局より報告資料2に沿って説明があった。
- 構成員より、次のような意見があった。
 - ・総合診療医をしっかりと育てていくことが求められているが、これまで本県では、それほどしっかりしたものがあつたわけではないと感じている。
 - ・奥能登の新病院が本研究会の一つのゴールとしてあるし、魅力的な研修環境やキャリアの形成について、県全体で議論していく必要がある。

< 報告事項 4 : 金沢大学医学類特別枠のキャリア形成プログラムの運用の見直し >

- 事務局より報告資料4に沿って説明があった。
 - 構成員より、次のような意見があった。
 - ・学生にしっかりと理解していただけるよう、募集要項には平易な文章で分かりやすく書いていただきたい。
- (事務局) 特別枠の入試の面接等といった場で、十分説明させていただく。

< その他 >

- 構成員より、全体を通して次のような意見があった。
 - ・金沢大学においては、医学生の臨床実習科目を活用して、「開業したい」「地域で貢献したい」「学び直したい」といった先生へのリカレント教育の準備をした。
 - ・金沢医科大学においては、卒業後に県内での従事要件がある学生に総合診療医の魅力を伝え、本県に残っていただけるよう協力したい。
 - ・狭い専門分野を勉強したい若い医師は多い一方、専門分野だけをやってほしいという病院はほとんどない。どういった医師を長期的に育成していくか、改めて考えていく必要がある。
 - ・リカレント教育については、あまり難しくせず、簡単に自信がないところをサポートできるような石川県版のようなものを検討できれば良い。
 - ・医師偏在対策は、多方面での検討が必要である。
 - ・薬剤師の地域偏在問題も深刻である。能登の人口減少に歯止めがかかっていない現状が気になっており、このまま人口が減れば、民間の薬局がビジネスモデルとして成立しなくなるときが来るのではないかと心配している。
 - ・金沢大学卒業生の看護師が本県に就職、定着するための方策があまりなく、どんどん減っているのではと思う。看護師がまず県内に残る、そして少なくとも数年あるいはそれ以上定着してくれるような対策がないことを非常に心配している。
 - ・災害で能登の多くの方が避難したが、やはり生まれ育った地に帰りたいと言う。新病院の話もあつたが、高齢の方も多いため、能登へ帰るにあたっては新病院への期待もあると思う。

- ・総合診療医について、若い医師は専門性を深めたいという希望が途中で出てくると思うので、その点の対応が必要である。
- ・能登の皆さんは開業医の減少を不安に感じていると思う。能登の皆さんが明るく、元気に病院のことも心配せずに暮らせるようにと願っている。
- ・能登地区の開業医の減少は、これから大きな問題になってくる。
- ・地域医療には産業医、学校医、警察医の仕事があるが、能登の開業医の高齢化が進んで継承されないとすると、病院の医師がそれを担う方向になるのではないか。
- ・金沢大学は教育・研究の側面も重要であり、研究大学は研究大学の中で淘汰される圧が強い。うまくバランスを取って、教育・研究・臨床等に取り組んでいきたい。